JWUシーズ

※＝入力必須項目

研究者名※	浅野由子	学位※	博士(学術)
所属※	家政学部 児童学科	職名※	准教授
連絡先	yasano@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/yokko55		
研究分野※	複合領域(子ども環境学、科学教育)		
研究キーワード※	遊び、人権・権利、環境教育		
共同研究・競争的資金等の研究課題	1)日本女子大学総合研究所　研究課題78「スウェーデンで学ぶSDGsプログラム―全学共通科目の開発―」(研究分担者) 2)科学研究費基盤研究(C)21K02587「 持続可能開発目標(SDGs)に向けての「アクティブ・ラーニング」の国際比較研究(2021年度－2023年度)」(研究代表者) 3)科学研究費基盤研究(C)18K02549「グローバルとローカルの持続可能性を融合するGAPのモデル開発」(2018年度－2020年度)」(研究代表者) 4)科学研究費若手研究(C)24700873「持続可能な開発の為の教育のカリキュラム・教材化および教師養成の開発」(2012年度－2015年度)」(研究代表者)		
社会貢献・産学官連携活動等	1)2020年9月～2021年3月　森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク・（公社)国土緑化推進機構【森と自然の育ちと学びラボ】地方創生班ラボメンバー 2)2021 年 2 月 15 日～3 月 22 日　欧州連合専門家契約　European Commission (EU) EXPERT CONTRACT:CONTRACT NUMBER CT-EX 2015D258227-101 LC-GD-10-2-2020: Behavioural, social and cultural change for the Green Deal		
受賞歴	日本女子大学　成瀬賞(2009年)　教育賞(2021年)		

研究領域	遊び、持続可能なまちづくり、 環境教育、ＥＳＤ	
研究テーマ※	持続可能性を考慮した子ども環境について	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 地球環境の持続可能性を考えることは、未来を生きる子どもたちの環境を考えていくことであることから、子どもの環境を、ミクロとマクロの両視点から考えている。SDGsランキング1位(2020)となった北欧スウェーデンでの10年以上に亘る保育・研究経験から、今後の日本社会において必要な子どもの環境について、家庭・園・地域・地球環境という視野で追求している。博士論文の比較の指標として明らかにしたのは、「体験(感覚)」「モデル(循環)」「科学(知識)」「倫理(集団倫理)」「行動(実践)」の「5つの視点の環境認識論的モデル」である。 【応用例、研究の展望】 国際比較の視点から、スウェーデンでは、ESDやSDGsを政策的・教育的レベルで今世紀に入り強化しており、市民のサステイナビリティの認識度は高い。日本では、DESDはじめ、教育レベルでの強化をしているが、SDGsといった政策レベルとの融合、つまりボトムアップとトップダウンの融合が今後の展望として望まれている。 【研究方法の特色】 政策的レベルでは、国・企業・学校・民間団体の連携やつながりによるよりよい子ども環境の在り方を、キーパーソンにインタビュー調査、アンケート調査を行っている。教育的レベルでは、家庭や園・地域における子どもや親の保育の実態を、ワークショップやイベントの参与観察やインタビュー調査、アンケート調査により明らかにしている。	
本研究関連 特許・論文等	浅野由子(2009)「持続可能性に向けた幼児期における環境教育の意義―“」5つの視点の環境認識論的モデルから”―」 浅野由子(2020)「スウェーデンにおける幼児期の SDGs 実践 ―就学前学校の保育・教育活動から―」シリーズ 研究の動向47、日本家政学会学会誌 Vol.71 No.6 419～423,pp73-77 浅野由子(2021)「持続可能な開発の為の教育(Education for Sustainable Development: ESD) からみるウプサラ市の持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)の主導性」北ヨーロッパ研究第17巻、2021年6月	
共同研究・外部機関との連携への期待	持続可能な開発目標に向けたアクティブ・ラーニングの国際比較研究 持続可能性を考慮した保育環境の開発・	